# 資源環境経済学特別演習Ⅱ　議事録
## 2012年度　第2回

**報告題名：中国吉林省のコメ流通における民間企業の役割**
**ー吉林省吉林市有限会社大成農業を事例にー**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 報告者 | 金　銀輝 | 日時 | 6月28日　午後3時～ |
| 所属分野 | 国際開発学 | 場所 | 第二講義室 |
| 座長 | 宮里　かつ代 | 議事録担当者 | 志賀　あゆみ |

**出席者**

長谷部、木谷、安江、小山田、盛田、米澤、米倉、冬木、高篠、石井、大友、スチン、宮里、滝田、ﾀﾝﾎﾞｳﾆ、中村、山口、Bayu、Dian、Dea、金、黄、今井、渋谷、室井、ﾅｽﾝﾑﾝｸ、徐、趙、Manalo、劉、王、井坂、井上、志賀、渥美、伊藤（航）、江守、佐々木

**報告要旨**

**●目的**：1978年の改革開放以来、中国政府は新たな社会状況に従い、繰り返し農産物の流通システムに対して改革を行なった。まず農産物に関する統一買付け･統一販売制度（統購統銷）の廃止が行われ、都市住民に対する食糧の販売価格が完全に開放、価格が市場原理に従い自由変動になった。2000年には一部の食糧を価格保護制度から退出させ、2002年の全面的な食糧市場開放の基礎を固めた。2004年には食糧の流通市場が開放され、現在食糧の市場化が新たな局面を迎えつつある。以上より、本研究の目的は現在市場化が進行している中国農産物流通における米流通チャンネルの効率化に必要な条件を明らかにすることである。また、中国の米の主産地である吉林省の民間企業「大成米業有限責任公司」を研究対象として、インタビュー調査を実施し、新しく形成された米流通における民間企業の役割を考察する。

**●材料と方法**：既存文献から中国における食糧システムの発展の歴史とその意義を纏める。更に吉林省の稲作発展の過程とコメ産業を整理した上で、吉林省吉林市の民営食糧企業に注目し、実態調査を行う。筆者は2012年3月6日から4月7日まで、吉林省吉林市で現地調査を行った。吉林省吉林市統計局、吉林市食糧局、吉糧集団吉林市中心食糧倉庫（国営）、有限会社大成農業（民営）等を訪問し、資料、情報を収集し、吉林市江密峰鎮の稲作大規模農家（1戸）、一般な稲作農家（9戸）の聞き取りおよびアンケートによる調査を行った。それらのデータに基づいた分析・検証を通じ、上記の課題を明らかにした。

**●結果と考察**：従来の国有食糧企業が唯一のプレイヤーであった状況から、中国の食糧マーケティングプレイヤーが民営食糧企業、私的商人、食糧加工販売者など、様々なマーケティングプレイヤーが参入し、中国における食糧流通市場が多様化しつつある。政府の食糧流通に関する政策が、特に民営食糧企業の高速発展に良好な条件を提供したため、中国の民営食糧企業は近年の成長が著しいということである。その結果、以下の4点が明らかになった。

①多くの民営食糧企業が一つの企業から大型企業規模へと年々拡大し、集団化する傾向にある。②会社制と株式制が創立され、近代企業制度へと発展している。一部の民営食糧企業が初歩的な法人管理の構造を創立し、株権の構造を改変している。③経営方式が変わり、産業化経営が発展している。目下、生産基地の創立と契約購買の実施が市場の経済発展に適応する唯一の道だと認識されており、原料の安定供給・生産品質の向上・食料付加価値の増加に関して、重要な役割を担っている。④近代経営管理の理念を確立し、企業の総体素質が向上している。経営と管理方面の専門家を募集し、専門技術を持つ人材に高給を保証している。

以上より、中国中央政府の市場経済政策によって食糧流通市場が全面的に開放されつつあることがいえる。中国の民営食糧企業は、いまだかつてない黄金のチャンスを獲得している。民営食糧企業の経営者らの経験は「改革開放」以降の中国食糧流通市場ではより重要な役割を担うと強く信じられている。

**質疑・応答**

**室井**：スライド 19 番に「民間企業の優位性」とあるが、どのような調査をして、どのような国有企業の現状があるのか、その上で民間企業がどのように優位しているのかが分からない。

**金**：そのことについて考えました。しかし、民間企業はほとんどなく、比較するとしても収入レベルのみになります。パワーポイントに示したように、購買ツールの減少、貯蔵量の低迷、三老問題というのは民間企業にはありません。そのため、どこが比較できるのか自分でも困っていました。

**伊坂**：どのような調査をしたのかがよく分からない。

**金**：国有企業と民間企業を比較して共通点を探したが、なかったため、現在の国有企業と民営企業の実態について調査しました。

**伊坂**：2 つの企業を調べたのは分かるが、その後に記述している問題と優位性についてはその他の全ての企業に言えることなのか。例えば、新型の管理方式を民間企業なら全て導入しているのか。

**金**：全てではありません。大成農業と同程度の企業なら行なっているが、それより小さい企業では行なっていません。また、それより大きい会社では異なる経営方式を行なっています。

**伊坂**：スライド 20 番の結論に「政府の食糧流通に関する政策が、特に民営食糧企業の高速発展に良好な条件を提供したため」とあるが、これは同じ意味なのか。もしこうであれば、国有企業の購買量や貯蓄量の減少というのは問題ではなく、政策的なものと言えるのではないか。

**金**：昔はコメの国家管理が強かったため、国有食糧企業しか購入できなかったです。食糧問題が解消した後に一部食糧市場が開放されました。2004 年以降に全面開放をしたが、農民は国有企業にコメを売らないことが問題になっています。民間企業は国有企業より高い値段で購入しています。

**宮里**：スライド 18～19 番の「民間企業の役割」について、結論に「重要な役割」とあるが、具体的にどのような役割なのか。

**金**：論文の中に記述してありましたが、時間の関係上割愛しました。コメ流通における民間企業の役割は食料生産の発展を促進すること、農村住民の消費需要をもたらすこと、多元化競争を営造し食糧市場と食糧流通を活性化することです。民間企業の市場に適応した経営は迅速かつ柔軟であるので、高効率、高収益、低コスト、低価格という優位性を持っています。

**長谷部**：これから調査結果やデータを整理するのか。

**金**：はい、これからやるところです。

**伊藤**：現在コメ流通の全面開放がなされてはいるが、国有企業の役割というものもある。例えば、市場の動向によっては放出するなど、コメの価格変動を抑える機能がある。また、国営企業が多くの職員を抱えながら民営化せず上手く残っているということは、コメ流通において発生するリスクを負担しているという側面もある。そのようなリスク負担と調整コストというものをどのように捉えるのか、結論に至る前に考えて記述する必要がある。

**米倉**：調査で得られた流通チャンネルの動きや変化がどのような条件の下で起こったことなのか、また、流通の自由化の中で政府が行った様々な政策とも関連付けて記述してほしい。その上で、民間企業の優位性や役割というものをさらに具体的に綿密に書き加えて欲しい。